

退院時指導に行こう！

特別・特定医療法人 生長会
府中病院 薬剤部 山口 元美

1. テーマの選定理由

問題点	評価基準	問題の解決したらメンバーにとって利益あるか (薬師)	この問題はすぐに解決する必要があるか (薬師)	自分で解決できる問題か (実習生)	6ヶ月以内で完了できるか (実習生)	施設の年代・課・係の課題と結びついているか	問題の解決した時患者にとって貢献できるものか	顧客から不満・要望の声かどの位あるか	合計点
	3点:利益ある 2点:あります 1点:あまりない	3点:非常に急いでいる 2点:急いほうがいい 1点:急いでいない	3点:自分で解決できる 2点:随分内力で解決できる 1点:できない	3点:完了できる 2点:多分できる 1点:できない	3点:結びついている 2点:ほぼ結びつく 1点:あまり関係ない	3点:貢献できる 2点:ますますできる 1点:あまりできない	3点:非常に多い 2点:時々ある 1点:あまりない		
TPN混注薬の配達について	3	1	3	3	2	1	1	14	
ENT時指導について	2	3	2	3	3	3	2	18	
ケモのプロトコルについて	3	2	2	1	2	2	1	13	
薬の紛失時の対応について	1	2	3	3	2	2	1	14	
持込み薬について	2	2	2	3	2	3	1	15	
発注システムについて	3	2	3	3	1	1	1	14	

マトリックス図

KJ法により問題点を抽出し、マトリックス図を用いて評価した結果、現在の薬剤部における問題点として、①TPN混注薬の配達、②退院時服薬指導の充実、③化学療法剤のプロトコルの統一化、④持込み薬の管理の4点が挙げられた。実現性や緊急性の観点から、「今より多く退院時服薬指導に行くこと」を今回のテーマとした。

サークル チーム名		ふ〜じい		(2007年5月結成)	
リーダー氏名 (職種)	小泉 祐一 (薬剤師)	所属部署	看護 管理	月当たり会合回数	4-5回
リーダー経験年数	1年		医療技師 事務	平均会合時間	
メンバーの数	計7人	QC ストーリー	①問題解決型	平均会合出席率	65%
	うち男3人 うち女4人	活動内容	②質 ③能率 ④CS ⑤安全 ⑥モラル ⑦コスト	テーマ歴 (このテーマで)	6件目

2. 現状把握

昨年度の現状を把握し退院時服薬指導取得率を算出するため、平成 17 年度 7 から 9 月の退院指導件数および退院人数を調査した。結果、平均退院時件数は 90.3 件/月、平均取得率は 14.9%であった。

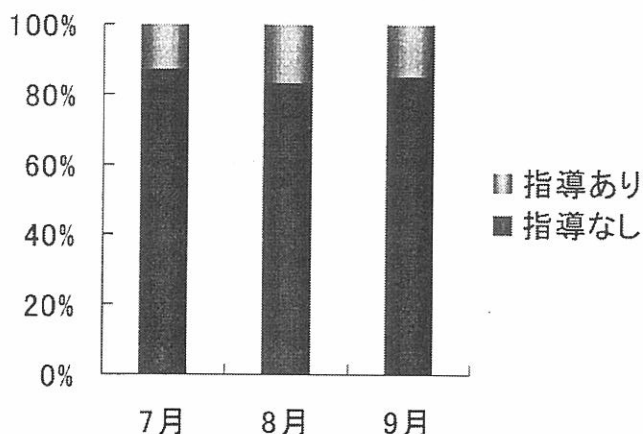
退院時指導件数(件)

7月	8月	9月
81	102	88

退院人数(人)

7月	8月	9月
634	606	584

退院時指導取得率(%)

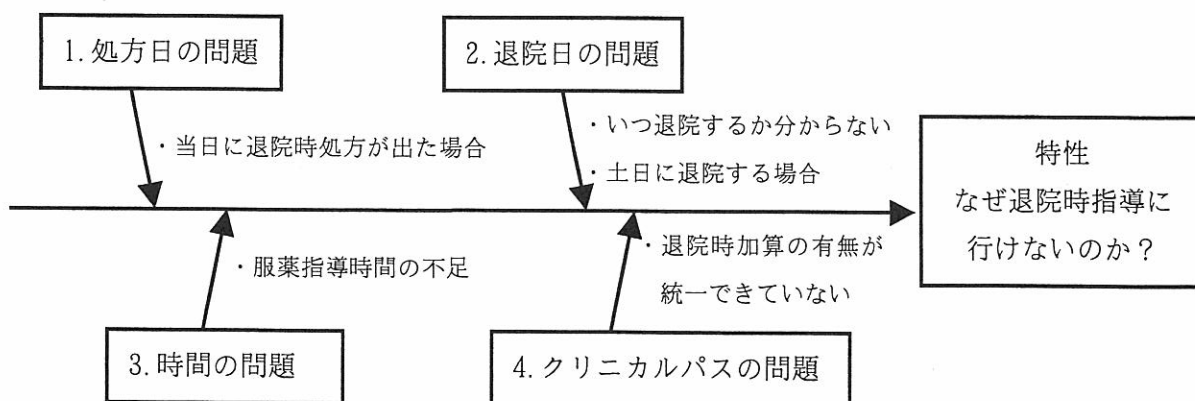


3. 目標設定

当院の退院人数は月あたり平均 600 人であり、そのうち退院時指導の算定が可能なパートナーは 3 分の 2 であった。退院時処方が出る割合が 50%と仮定すると、月あたり 200 件の算定が可能となる。よって、月あたり、延べ人数 200 人の退院パートナーに退院時服薬指導を行うことを目標とした。

4. 原因追求

退院時指導に行けない理由について検討したところ、①退院処方が出たことを把握出来ていない②パートナーの退院日を把握出来ていない③退院時服薬指導に行く時間が足りない(服薬指導に割り当てられている時間は退院時指導よりも通常の薬剤管理指導を優先してしまうため)④クリニカルパスで退院時加算の取れるものを取っていないの 4 点が挙げられた。



5. 対策の検討

退院時指導を現在より多く行うための対策として、①指導時間の確保と効率化、②薬剤師全員の意識の向上、③看護との連携が挙げられた。

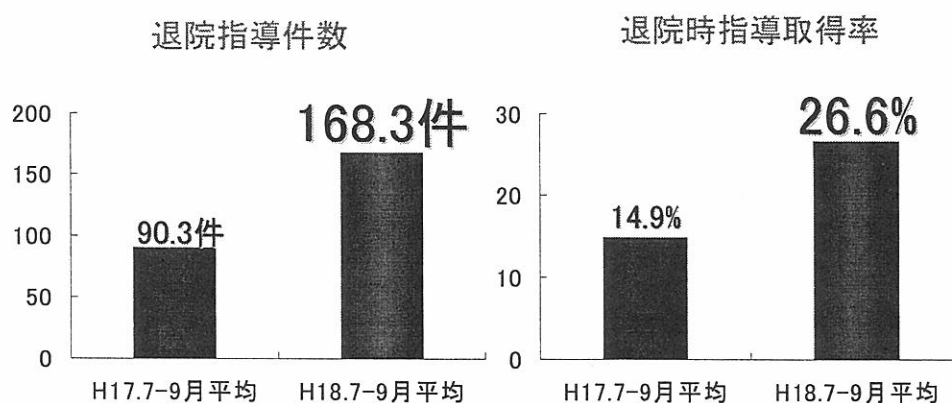
6. 対策の実施

標準化および定着化するために以下の対策を実施した。

- ・調剤中に退院処方を見つけた人は病棟担当薬剤師に声をかける。
- ・調剤担当薬剤師（土曜日等）も仕事量を見計らって、指導にあがる。
- ・病棟担当薬剤師が薬剤科に連絡し、薬剤情報提供用紙を送ってもらう。
- ・看護師に声を掛けてもらう。
- ・意識の向上のため、ポスターを作製する。

7. 効果確認

今年度の7月から9月までの退院患者総数および退院時指導件数の集計を行い、前年度同期間との比較を行った。退院患者総数については顕著な差はみられなかったが、退院時指導件数は、月平均 90.3 件から 168.3 件へ上昇した。これより目標達成度を算出すると 84.2%となった。また保険算定額については件数の増加に伴い、月平均 39,000 円（45,000 円→84,000 円）の増収となった。



保険算定額 : 45000円⇒ **84000円**にUP!

目標達成度 84.2%

無形効果として、薬剤師の退院時指導に対する意識の向上が認められた。また、看護師によるパートナーへの退院時処方の説明にかかる手間を軽減することができた。波及効果として、調剤業務の空いた時間を利用することにより薬剤管理指導の件数も増加した。

8. 定着化

以下の5項目に示すように、いつ、誰が、なぜ、何を、どうするのかを明確にすることで定着化を試みた。

いつ	誰が	なぜ	何を	どうする
退院時指導時	病棟担当薬剤師が	時間短縮のため	薬剤部から薬やその説明書を	送ってもらう
退院時処方調剤時	調剤者が	退院日を迅速に把握するため	病棟担当薬剤師に退院日を	知らせる
常時	薬剤師の	意識向上のため	ポスターを	掲示する
退院日決定後	病棟担当薬剤師が	退院日を迅速に把握するため	看護師に連絡を	依頼する
業務中時間に余裕がある時	調剤者が	より多く指導に行くため	退院時指導を	行う

退院時指導を行うことを周知徹底するために！

月毎に病棟別集計 ⇒ 「退院時指導」を常時、意識！

9. 自己評価、今後の計画

<良かった点>

- ・ 病棟担当薬剤師と調剤スタッフの連携
- ・ 病棟担当薬剤師と看護師の連携
- ・ 薬剤師の退院時指導に対する意識の向上

以上のことが図れたことにより、退院時指導件数のアップが実現出来た。今後この効果を継続することで、年間約 470,000 円の増収が見込まれる。

付随効果としては、看護師の手間の軽減、薬剤管理指導件数の増加がみられた。

<反省点>

今回、退院時指導件数は伸びたが 100%となる目標の 200 件には達していなかった。

<今後の課題、計画>

薬剤管理指導時間の更なる捻出を図る改善策として、調剤業務の改善が挙げられる。例えば土曜日の薬剤管理指導業務においては、基本的に土曜日は病棟へは上がらないことを前提に組まれているが（注射二日出しなど調剤業務が平日に比べ多い為）、土曜日でも交代で病棟に上がれば、退院時指導をはじめ薬剤管理指導の件数も更に伸びる可能性がある。

また、今後も医師、看護師との連携の強化に努め、常に退院時指導に対するモチベーションを保てるような工夫が必要であると思われる。